

寫丙

關東州水産組會遠洋漁業團設置趣意書

北清一帯、海洋、由來、漁業、富、就、中、山東省、空
空島、利、津、盛、京、者、熊、岳、城、西、管、口、天、橋、麻、及、鴨
綠、口、紅、山、一、帯、黃、花、魚、及、快、魚、特、産、地、シ、テ、年、優
三、毫、千、萬、内、ヲ、越、シ、テ、其、直、十、八、出、魚、名、關、東、州、魚
民、ナ、リ、彼、等、拾、救、萬、生、命、之、実、ニ、此、魚、場、依、テ、繫、カ、ル、ト、言
フ、モ、証、言、ニ、ア、ラ、ス

然、レ、此、等、海、賊、又、海、賊、巢、窟、ニ、テ、出、魚、之、妨、害、ヲ
興、ル、ト、甚、大、ナ、リ、露、國、ノ、暴、關、東、州、ヲ、租、借、ス、ル、由、茲、
見、ル、所、ア、リ、與、民、ヲ、テ、組、合、シ、テ、漁、業、之、相、當、保、護、
ヲ、加、ヘ、タ、リ、シ、カ、日、露、戦、后、關、東、總、督、府、亦、以、利、權、侵
ヘ、セ、ル、ノ、目、的、ヲ、以、テ、日、本、人、ラ、シ、テ、之、ク、設、備、ヲ、為、サ、シ、能、ク
其、効、ヲ、奏、シ、タ、ラ、以、テ、利、權、回、收、ニ、銳、意、セ、ル、盛、京、將、軍、
在、清、國、奉、天、省、木、總、領、事、館

忽、以、此、注、目、シ、誠、ニ、先、清、國、人、ニ、同、様、設、備、以、テ、
之、セ、ニ、以、利、圖、内、侵、入、セ、シ、メ、其、有、望、ナ、ル、確、ル、ヤ、更、ニ、永
遠、ノ、事、業、ト、シ、テ、與、業、公、司、ト、シ、テ、設、立、セ、シ、メ、本、年、一、既、
種、々、ノ、施、設、ヲ、為、サ、シ、ト、ス

然、レ、關、東、州、於、ケ、ル、前、述、ノ、設、備、ハ、是、時、時、シ、テ、間、モ、チ、ク
之、ヲ、中、止、セ、ル、カ、故、ニ、本、年、右、等、ノ、與、場、ニ、出、魚、セ、シ、ト、欲
ス、ル、モ、ハ、勢、清、國、ノ、與、業、公、司、ニ、不、當、保、護、料、ヲ、納、メ、サ、ル、
ハ、カ、ラ、ガ、ル、ノ、コ、ト、ナ、ス、現、在、ハ、状、態、ニ、シ、テ、改、ム、ル、ナ、ク、ハ、關、東
州、與、民、利、權、永、遠、清、國、民、ヲ、為、メ、奪、ル、シ、テ、故、ニ、以、降、
之、ニ、對、シ、テ、適、當、ノ、設、備、ヲ、ナ、ス、ハ、彼、等、與、民、利、益、ヲ、保
護、シ、保、テ、我、邦、人、ノ、利、圖、ヲ、擴、張、ス、ル、所、以、ノ、急、務、ナ、ル、
本、團、ハ、即、チ、此、急、ニ、應、ジ、カ、為、メ、組、織、セ、ル、モ、シ、テ、呈、表、
關、東、總、督、府、保、護、ノ、下、ニ、組、織、セ、ラ、シ、タ、ル、モ、ハ、其、地、區、僅



能岳地地方止マリ事業範圍亦專海賊ニ對ス
 保護ニ過キサリモ本團ハ地区前記各奥場ニ
 擴メ事業モ亦常ニ奥民ノ保護ノミ止マズ追テ之
 等ノ奥場ヲ將來ニ東州在住日清奥民ノ盛衰ニ
 關スルニト大ニ鑑ミ却テ清團在來ノ奥民
 具其他改良ヲ計リ販路ヲ調査シ奥場ヲ探檢シ
 以テ彼等ノ利益ヲ増進セシメントス只日本奥業者ハ
 未ダ北清ニ於ケル實際ノ經驗ニ乏シク今回試驗的ニ
 之ヲ用フルニ止メ重キヲ清團奥民ニ置カレントス蓋シ如上ノ
 事業ハ個々ニ奥業者ノ自ラ能クスベキ所ニヤラズ見シ
 其ハ助ノ援助ヨリテ強固ニ團體ヲ組織セントスル
 所以ナリ

在清國奉天日本總領事館

丁号

第一遼東外洋漁業ノ由来

遼東ノ沿岸ハ奥族豊富ナリト雖モ亦海賊ノ巢窟ニシテ
 此地方ニ於ケル外洋漁業ヲ奈達ヲ害スルコト多カリシハ露國
 カ関東沙ヲ租借スヤ清國人高景賢王嘉謨等ノ申
 請ヲ容レ是等ノ出稼ハ漁民ヲ保護スル目的ヲ以テ汽船
 ニ隻ヲ備ヘ又事変アルハ陸兵ヲ派遣スルコトシ其保護
 料トシテ漢船一隻付約五十円ヲ定收シ數萬ノ收入ヲ得
 来リタリト云フ

明治三十七年ハ日露戦乱ノ有リ遼東ノ漁業ハ凡テ休止シ
 タリシカ三十八年ニ旅順公議合ヨリ軍政署ニ出願シテ
 熊岳城ニ於ケル出稼漁業ノ特許ヲ得ントシ同署ニ之ヲ
 蓋平軍政署ニ移管シムルコトトシテ其出稼漁業ニ特許シタ
 ルモ蓋平軍政署ハ無断ニ着手セリト理由ノ下ニ已ニ出
 漁セル彼等ニ退去ラセシメタリ

在清國奉天日本總領事館

三十九年ニ旅順民政署ニ於テ有村連、遠洋漁業
 ノ許可ヲ與ヘタレ其着手スルニ至ラズシテ止シカ阿部野利君
 田中清島等ハ之ヲ決テ別ニ関東總督府ニ出願シテ特
 許ヲ得タリ其目的ハ汽船ニ隻ヲ備ヘテ外洋漁業ヲ航
 ヲ保護スルニ在リテ特許料トシテ銀四千円ヲ納付シ步
 兵將校一名下士以下四十名及憲兵一名ヲ派遣スルコト
 コトニ趣届ケラセタリ

阿部野利等ハ乃チ漢利公司ナルモノヲ組織シ五月初旬
 熊岳城及貔象園ニ事務所ヲ設テ一空ノ保護料
 ヲ出漁者ヨリ定收シヨリ其料額如左

風網 一漁舟 銀五十円

掛網	一流舟	々三十内
流網	〃	〃五拾内
釣船	一隻舟	〃五内
販船	〃	〃三十内
船種	一流舟	〃五内

之ヲ先苗家條に於て北京政府より遼東ノ漁業及
 塩業調査ヲ命セラレテ奉天ニ在リ偶王嘉謨ニ遊
 近し前年露國時代ニ於テ漁業保護ノ有利ニ
 ラルル財源ヲ得ル方法ヲ設テ漁業公司ナル名稱ノ下ニ
 之ヲ法利公司ト同様ノ組織方法ヲ以テ後ニ遼東
 事務所ヲ設テ兩々相対シテ遼ラカリニ爲メ出漁者
 フラ歸趣ニ惑ハレシノ失態ヲ生シ遂ニ遼東都督府
 及盛京將軍トノ交渉トナリ和解シテ双方其利益ヲ

在清國奉天日本總領事館

等分テシ條件トシ理海案蓋平、西口、熊岳西河口ニ支
 却テ置キ各汽船ニ隻及船板十數隻ヲ以テ漁場ヲ巡
 海賊ニ對シテ警戒販賣及搬出其他妨礙ノ件裁及救
 濟等諸種ノ保護ヲ與ハルヲ以テ出漁船數約千二百隻
 中入會者ハ千四百餘隻ニシテ收入額六萬餘円ニ達シ
 漁業者モ亦安全ニ出漁シ稱々好成績ヲ得タリ
 昨年ニ於テハ前述ノ如キ紛争ノ爲メ漁期ヲ失シ右章
 業ニ只熊岳障ノ方面ニ止マリタリト云ヒ遼東ノ外洋
 漁場ハ故テ之ニ止マラス後ニ述ビルカ如ク其區域尚多シ
 故ニ盛京將軍ハ昨夏利権回收ノ好名目ノ下ニ右ノ
 漁業公司ヲ擴張シ遼東沿海ノ保護ヲラシメ又漁業
 改良ノ目的ヲ以テ清國人ノ外外國人ノ出漁ヲ禁止セ
 ントシ出漁者ノ大部分ハ遼東沙民ニハ遼東沙内ニ

別紙ノ如キ告示ヲ揭示シ漁業ニ任厥アル者モ亦廣東
汕頭ナルハ或ハ金錢又ハ位階ヲ給スルト云フカ如キ約
束ヲ勸誘シテアリ故ニ此任何等ノ方法ヲ設ケルハ
閩東汕頭民ハ漁業公司ノ保護ヲ受クシノ外第ナク
ハナシ

第三漁業區域、漁期、魚種及海況

外洋漁業ハ三月山東省黃縣空々寫ニ起リ其漁
期約十日間ニ同者瀋南府利津ニ至リ其漁期約
前二同ノ四月熊岳城一帶其漁期約二十日間四五
月西營口及天橋一帯約半月間六月紅山約
二ヶ月間ニ及ブ

此区域内ニ直隸灣ニ於テハ鯨及海狗法屬正月
ヨリ二三月ニ至リ遼河ノ鮮米流上ニ棲息スル海狗ト

在清國奉天日本總領事館

稱スル高貴ナル海狗等アルモ是等ハ從來清國國民ノ
漁獲ニ任厥アル其他刀魚鱈アルモ之ハ遼東河内ノ
多キ以テ之ヲ畧スルコト、シテ其漁獲高貴多ク且
清國人、常用食品ナル黃花魚及秋魚トシ

黃花魚ハ山東省沿岸ニ於テハ尺以下ニシテ熊岳味迄
二尺以上ニ至ル西營口以後ハ更ニ長シテ二尺ニ達ス鮎魚ハ
熊岳城、於テ黃花魚ノ漁期過クテハ後漁獲セズルモ
ノミラニ尺乃至三尺ニ至ルモノナリ

黃花魚ハ群集魚種ナルカ如何處ニ蕃殖スルヤハ不明
ナルモ法國人ノ説ニ依リテ前記山東省沿岸ノ各地ニ
生長シ潮流ノ寒暖ヨリ群ヲ爲シ右ノ通路ニ沿ヒテ
各所ニ移住シタル後產卵期ニ達スル付卵ノ爲者其
元産地ニ帰ルト云フ且熊岳城ハ砂地ニシテ而シテ暖流

ニ沿ルヲ以テ五座卯ニ適スルモノ、如シ

今仮リ大連ヲ起スルハ空々場迄約五百清里順
 風(北風)ニ從ヒ一昼夜ニシテ達ス利津迄約千清里
 順風(北風)ニテ三昼夜ヲ費スルシ能岳城約四百清里
 順風(西南風)一昼夜西宮口迄約七百清里順風ニテ一
 半ナリ天橋一廠約五百清里ニシテ約二日ヲ要シ紅
 山迄千五百清里ニシテ順風(西南)ニ乘スルハ五昼夜ニシ
 テ遠スル航路トシテ孰シモ別ニ埃塵ヲカカチコトナシ只航
 海及出漁ニ障礙スル下ニ述フニ海賊ノ害ナシ

(一) 漁獲高表

地名	漁船數	一夏獲量	總獲量	單價	一夏獲金	總獲金
空口	二〇〇	一、六〇〇、〇〇〇斤	三、三〇〇、〇〇〇斤	百兩	五〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
利津	一、五〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	百兩	一、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇

在清國奉天日本總領事館

地名	漁船數	一夏獲量	總獲量	單價	一夏獲金	總獲金
能岳城	二、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	一三、四〇〇、〇〇〇	百兩	二、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
天橋廠	二、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	百兩	二、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
紅山	二、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	百兩	二、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
計	七、〇〇〇	二八、七〇〇、〇〇〇	五八、〇〇〇、〇〇〇	百兩	八、〇〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇

備考

- 一、漁船平均百名程トス
- 二、漁獲量數、單價、實際三月乃至五月迄モ本表ニ於テハ最低額ヲ以テ計算セリ
- 三、一隻ノ漁獲量、計算、便宜上千位ニ係上ケリ

第五販賣及商慣習

此所謂外洋漁業ヲ漁獲セシムル者、黃花魚及牡蠣
 清國人ノ最嗜好ニ適スルモノニシテ從來遼東ノ特産ナ

ハ遠ク上海方面ニモ輸出セラレ、モノニシテ山東沿岸ニ其
果商人ノ手ニ依リテ取扱ハル、モノニシテ仲買人ニ其則節
ニ至ル所謂販船ヲ裝ヒテ來ルモノニシテ日々取引セラレ其
供芝罘營口等ニ輸送セリ問屋ニ於テ塩蔵其他ノ方
法ヲナスモノニシテ販路ニ付テハ関車海ニ於テ銀ノ如ク販路
少クシテ困難ナルカ如キコトナリ其價格ノ如キモ昔々騰貴
タル傾アリ紅山ニシテ安東縣ノ問屋ニ依リ賣買セラルモ
上海ノ問屋ヨリモ亦船ヲ寄スト云フ

第六海賊及悪風儀

遼東ノ海賊ノ巢窟タル閩粵ト共ニ遠ク支那歷代ノ治
者常ニ之ヲ患トシ陸上ノ賊及匪賊ト共ニ具尋治
安ニ関シハ難治ノモノトシテ自治ニ委テ戸口ニ保甲ヲ設
クカカク船ヲモ之ニ働ヒ津甲ヲ設ケシメ(大清律例

在清國奉天日本總領事館

吏部 易例及会典戸部 易例)又確實ナル津甲ニ
對シテハ兵器ヲ貸與又ハ携帶ヲ許シテ(大清律例
会典戸部 易例吏部 則例)然レ此尋ノ制(海
度ニ南方ニ勵行セラレシレ北方ニ空文ニ過キスレテ海
賊ノ横行ニ委シクルカ故ニ海賊ノ沿岸漢村ニ住シ徒党
ヲ結ビ漢吏ヨリ金錢物品ヲ強收シ居リ
海賊ノ島賊ト共ニ清人呼ビテ紅鬃子ト云フカ如ク
其間何尋ノ區別ヲ南方ニ未ダスルモノ如キ大仕掛ノ
モノニテラズ大概沿岸ニ住シ其首領ハ海龍海島ト
稱シ多キハ二三百ノ部下ヲ有シ各地ニ連絡ヲ有スレハ
其利益トシテ私販及私銃ヲ有スルニ過ヤサレハ外洋ニ
出沒スルニ比較的サナシ
右ノ如クテ以テ露國時代ニ軍艦ヲ其窮賊ニ用

20

2

取調 會計 人事 通商 政務

大臣 次官

10時

林外務大臣

吉田事務代理

奉天 四年五月廿八日
奉天 在奉天

第百七十三号
 會來リ且漁業國總弁ノ名義ヲ以テ
 遠洋漁船及 事件ニ對スル告示ヲ能岳
 城 地方ニ流布シテ其特聞
 寫二通ヲ送附シ來レリ大要左ノ通り
 ○第一号告示(五月十二日付)漁業船及魚類
 販賣船總テ旗ヲ受ケテ番号ヲ登記ス
 ルヲ要ス大漁船夕刻必ズ港ニ無帰港ス

ベク漁業 海上ニ留マルヲ許サズ漁業船ハ漁
 場ニ於テ魚類ヲ販賣スルヲ許サズ魚類賣
 買ノ店 及船ハ漁業船ノ帰港シタルトキ買
 取ルベク切カニ買入ルヲ得ズ以上ノ名(茶ミ)
 違反シタル者ニ嚴罰ニ處ス總局ノ者モ公平
 謹慎ヲ旨トスベク各取扱所ノ 長官部
 下ノ規程ニ背キタル者ニ並ニ處カス
 第二號告示(五月十四日付)日本管轄内ノ漁
 船及遠洋漁船ハ必ズ本局ヨリ旗ヲ受
 ケ番号ヲ登記シ證書表ヲ受ケシ之遠
 フ者ニ倍ノ罰ニ處ス旗ヲ受クル料金ニ壹

圖トス本局ニ多ク汽船早航ヲ準備シ又水
 産細合ヨリカシノ汽船ヲ派遣シ
 及熊岳地方海面ニ赴キ保護ノ責ニ任ズ
 日本管轄外ノ航モ希望ノ者ニ之ニ准テ
 保護料ハ左ノ通り(汽船一艘ニ付金五圓)ノ
 ヨリ三〇圓一人ニ於テ五圓

院僅ヲホノラハト抑荷的ニ談話シテリ
 蓋平子件ニ重電ヲ一〇ニテ予ノ私意
 依リ極ク更ニ玄悔スル筈ナリガ早業
 賢クノ遺族ニ對スル賠償ニモ初ヨリ
 絶對的ニ拒絶シ居レリ之ニ死刑ニモ
 重罪犯人ナリト主張スル原因
 ナリ

以上ハ冬ニテ

第
17
門

電話第1294號
90年5月22日3時4分

142
17

電話

在奉天
吉田事務代理宛 大臣
分一〇七号
貴電一七三及一七四
關東都督
轉電也日

3-1815

0244

22



取調 會計 人事 通商

大臣 次官 政務

No. 1906

暗

林外務大臣

林全權公使

電信 本署着四十年五月二十日午前四時

第一八五號

能岳城附近海面に於て九日清漁業者、擱着

一件、就て奉天総領事館より累次、電

報に依り、中承悉、如く我漢業組合ノ行

動に到底辨護掩飾ノ途ナレト思ハル該

組合が如何ナル性質、モノナルヤハ知ラザル

モ組合以外ノ漁業者、對シ保護ヲ強請

西園寺少輔 何事か 海ス

スルが如キハ我領海内と於テ見スルモ非理不協ノ
甚之キモノナリ況シヤ之ヲ他領海内と於テ實
行スルヲヤ殊ニ彼等が水雷艇ヲ伴ヒフト
云フに至リテハ其行動ハ我官憲ノ援助ニ依
ルモノナリトノ疑ヲ起サレムルハ當然ナルノミナ
ラズ仮令此ノ一條ハ正確ノ事實ニ及ストスル
モ我々於テ彼等ノ行動ニ何等檢束ヲ加ヘ
ザルニ於テハ右様ノ疑ハ到底解クニ由ナク將
テ我々ノ威信ニ重大ノ累ヲ為スベシ速カ

断然タル措置ヲ採ルハ此際絶對ノ必要ト思ハ
ズ本件ニ付テハ趙將軍及袁世凱等ノ頗
強硬ノ意見ヲ政府ニ申出サズ趙等
外務部當局ヨリハ我組合ノ行ニ動差止メ
方ニ付キ懇々本官ニ依頼シ来リ今日迄
ノ所ニテハ外務部ハ我政府ノ公正ヲ大々
深ク信頼シ居ルモ現場ニ於ケル我漢業
組合ノ行動ハ申合猶未際限ナク繼續セテ

レワ、アル實況ニシテ既ニ奉天總領事官加
貴電大臣ノ九九號電報ヨリ趙將軍
ニ與ヘタル回答ニ對シテモ將軍ハ其現場ノ
奉態ト矛盾スルヲ指摘シ尤モ痛激ナル
電報ヲ外務部ニ送り来レル也
此上本件ノ要分ヲ遷延スルニ於テハ我ニ對
スル前記此等當局者ノ信用モ終ニ消滅セ
ザルヲ得ズ其結果ハ今後他ノ重要問題

對スル我正當ノ發言ト至リテモ到底彼ノ態
從テ来レ難キト至ルベシ此巴篤ト云ク
星ノ上邊滞ナク適當ノ由要辨アランコ
トヲ希望ス外各部大臣ト於テハ前記越
將軍ノ電報モアリ今ヤ本件ノ関シ換
焦慮ヲ極メ居リ之ヲ冷淡ト看過スル時ハ
情勢ノ驅ル所終ニ彼等加今迄執リ来リ
タル陰忌ノ態度ヲ一変スルト至ルバク斯ク

ヲハ甚カシク面白カラシム結果ト立テ至ルヤキト就キ
不取敢本官ヨリモ本件ト至急要分方政
府へ電稟シ置キタル旨ヲ内話シ置クベシ共
由合ニテテ取斗ヒラセフ

能く正名ゆ令令ノ上在別井為の事
中不計中

外務省

3-1815

0249

42

17. 經年時過月經

沖田三吉

大島都督

林外務大臣

三

學

電送第一三〇號
明治三十五年五月二日
午後六時五分發

(吉田林外務大臣東京一八五号復)

外務省

3-1815

0250

24

明治
17

郵

11
11
11
11

17

1299

明治 40年5月22日 6時15分

徳島県徳島市

主法

林の儀

平尾

中
三
平

改二回

貴電一八五号ニ答ニ志ニ角出請ニカレ
不取上ル方不取上ル方不取上ル方不取上ル方
虎伝念込送カレテ御由而引上ルカ
外務省

外務省
外務省
外務省
外務省

外務省
外務省
外務省
外務省

外務省
外務省

25

9

17

明治
〇
月
〇
日

以
重

吉
田

御
手
紙

電送第
明治〇〇年〇月〇日



卯
子
年

電
一
七
二
一
七
三
一
七
四
年

御
手
紙
付
封
シ
テ
送
付
ス
ル
事
ト
ナ
リ
テ
送
付
ス
ル
事
ト
ナ
リ

3-1815

0253

大臣 林 1922 暗

北京 癸 甲午 青 廿日 午 辰 七 時
本省着 廿日 午 辰 三 時

林外務大臣 在北京 林公使

次官 政務 通商

生 佛一八九号 電第一八五号 閣下 其後ノ情報 亦大連水 産組合 成立 閣下 確固スル 処ニヨリ 判断スルニ 閣下

ヨリ 閣東都督 對シ 協立 組合ノ 行動ヲ 林公使 止スベシト 一定 明確ノ 電訓ヲ 発シ 同時ニ 案ヲ 以テ 右ノ 命令ヲ 実行スルノ 手段ヲ 執ラレザル 以上ニ 組合ノ 暴行ヲ 決シテ 停止セラルルコト 無カルベシ 漁業 権擴張ニ 関スル 大連 當業者ノ 希望 並ビニ 都督府ノ 方針ハ 茲 批評スベキ 協合ニ アラザルモ 水産 組合 這回ノ 行

経 伊山

人事 會計 取調

動如何ニ 辨護スルモ 海賊的 行為タルヲ 免カレズ 然カモ 清國 側ニ 於テハ 一般ニ シテ 都督府ノ 教唆ト 援助ニ 依ルモト 認メラルルニ アラズ 都督府ガ 今度ノ 事件ニ 関シ 今日迄 全然 傍觀ノ 地位ニ 立テツアル 以上 右ノ 見解ニ 強テ 一 片ノ 邪推トシテ 排斥シ 難カルベク 政府ニ 於テ 宜キ 措置ヲ 執ラレバ 都督府ニ 對スル 當國 官民ノ 惡感情ノ 如キニ 暫クシテ 同ハトスルモ 清國 政府ニ 對スル 我政府ノ 威信ノ 到底ニ シテ 繫ガリ 由ナカルベク ト 信ズ 右ノ 以テ 付前 處分ニ 追テ 講スルコトトシ 不取 敢都督ニ 向テ 宜キ 前述ノ 電訓ヲ 発

セラレ尚ホ本件海上ノ出来事故都督府自ラ
ビツリヤラ
ナカカヲ以テ右ノ訓令ヲ實行シ難キ事情モア
ルベキ旨海軍當局ト協議ハ上至急相当ノ艦
艇ヲ現場ニ派遣シ水産組合ノ派遣艇並ニ
船員等取押ヘシムル様御取斗ヒタシテ至急
何分ノ御回電報ヲ乞フ

徳者ヲ撰ル者ト云フ又各出海防
 目申出請ヲ揚揚シヨルハ取録アリ
 海軍團ハ保艦料ヲ徴収スル
 東海ヨリハ海軍ハ勿論東海
 以外ハ海軍ト云ハ保艦料ヲ徴
 スルモノハモテ取録番ヲ申出サレテ海
 軍團ハ旅ヲ與ヘテ保艦料ヲ徴
 収スルハ保艦料何レハ海軍ト對シテ
 之ヲ海軍ト云ハ保艦料ヲ徴収スル
 事アリ

コトヲ肯セザレニテ海軍ヲ悉皆没収
 セラレタハ取モアリトコトナリ各出保艦料
 ハ普通一被ニ付五於國元ハ保艦料種
 類ニ依リ料額ニ多寡アリ右保艦料
 ハ毎月十割ヨリ取立初ノ是トハ徴収
 総額ハ海軍團側ニテハ九割ト録
 シタレモ實際ハ凡ソ各三割ナラントコト
 ナリ海軍團ハ今後日ヲ經海軍ノ
 衰ラレテ請テ引揚ラント云フ(四)出展書
 日即チニテ海軍ニ目撃ノ漢船凡ソ

三四百艘ナリシガ甲斐等ニ少敷ナリシ
 趣ナリ右ニ前夜、北風ニシテ漁船多ク
 丑多程ニタルト漁獲少シタルニ結果ナ
 リト云フモノアリ又一説ニ前夜馬山丸
 ノ強制留止ノ爲、おん逃走シタルナリト
 云フモノアリ前夜、三四百艘ニ大概漁業
 園、小旗ヲ掲ケテ、就中ノ界外外、
 漁船多ク、おんナリト云フモノ、日外外
 ノ漁船混シタルト云フ者モ漁場ニ少シ
 ク難シテ界外外ノ漁船ニテ漁業

園ノ旗ヲ掲揚セサルモノ多ク、一説ニナリ
 (五) 漁業園ノ外、日本人ノ経営ニ係リ
 フサキ組ナシモノアリ、ガギョケンニ於テ、漁友
 等ノ旗ヲ掲テ、漁業ヲ限リ、トシテ家
 屋ヲ借入レ、魚販販賣ニ従事シタルモ
 後蓋然ハテナレト云フ(六) 法七例ニ於テ
 〃 田代ニ奉天漁業保護公団分會ヲ設
 ヲ、係員員、任シテ、ヨレハ、廿月二十日ヲ
 始メトシ、陸ニ一隻、漁船ヲ祝賀ヲ取立
 クルノミナリト、係員員モ、奉天ニ一隻、

果亦如、世漁船ナルノ願ニ又危ク、
評ラシテ、徳意ニ於テモ世漁船
ニ与テテ載セ、時ニ機界砲ヲ拵付テ
果亦如外、漁船ニ云フニ及ス、海内ノ
者、其ノ法制、的ニ使テテ、
其ノ漁業公司、世漁船ニ漁業園、
旗ヲ掲ケ、店ニ漁船ヲ見、
又漁業公司ニ使テテ、
其ノ仲介ニ使テテ、
使ニテ、
使ニテ、

此ノ
海内ノ漁業園、
海内ノ漁業園、
海内ノ漁業園、

29

10/26

第17

明治
年月日
日曜日

手紙

封

上

印

1312

電送第1312號
明治46年5月23日

手紙

古崎新助

左

弟四六子

甘方付貴電ニ答シ御業者ノ欲ニ付テ

貴方未電ノ答ハシテ改ニ奉天ニ於テ或海

外務省

進捗シテクビツ答口ニ福ストスルニ口地ノ品

軍奉天ノ答ニ注シノ上ニ計ノ別例ナ

ル故貴電ノ口答ニハ口答シ難シ也

國ノ形勢ヲ見止メ出テ多ク上ケルニ付

テハ既ニ貴電ノ答ニ答テテ也

手紙

30

17

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調

No. 九三七

北京 四十年五月二十三日 三〇
本着 着

林 外務大臣 林 云使

第一九一號
社電第一八九號

關東都督が五月十六日付に本官に寄セタル
水産組合に關スル報告書(滿州に於ては交渉案
件に關し都督より本官に云々アクトルハ右に以テ初
メトス) 附屬書類 一冊中

一組合ハ汽船三隻ヲ備ヘ外洋漁業船ヲ保護ス
松島海軍少佐

ルヲ目的トシ特許料銀四千圓ヲ納メ昨年中
關東都督府ノ特許ヲ得タルト高都督府
ハ歩兵將校一名下士以下四十名官兵一名ヲ
派遣スルコトモ關局ケタリ
ト記申アリ又本官が他ノ筋より關ノ處ヨリ前記
漁船ニ搭載セル武器ハ當時、都督府より下
付 アタハカイヨ サレタルモノナリト云フ
若等ノ事ハ勿論申承知ナルベキカ令回ノ出来年
關局ニ就ニ即注意ヲ乞フ、價値アリト思考ス

青電第一二三号我が政府が既に組合派遣船呼
戻、手續ヲ取リしことハ外務部へ通報あり

3-1815

0265

事實ヲ存シ依然元前陳ノ事情モ有之且又右ノ如ク奉天有
 トハ境域相接シ壤土相連リ一ニ些事涉テ抗議スルハ
 八日清兩國ノ國交上好ミレカサル義ト存レテ抗議スルハ
 尤不約奉天將軍、於テ如上ノ慣行ヲ事情ヲモ視レ後
 利權回收熱的筆法ヲ弄テ猥リテ事毎ニ抗議スルカ如ク
 却テ將軍、於テコリ好ミテ兩國ノ親善ヲ交誼ヲ傷ムル
 ノ態度ヲ執ルモ有之甚ク遺憾ト致ス所、何尚又公告中
 々都督府ハ正格保護ヲ為スモノ、如キ也事アルモ右様ノ事
 實ハ年之付並ニ其業者、對シテ嚴重問責ノ上、何等ノ微
 回ヲ命ジ置供仍ホ水産組合、關スル御尚存ノ事項其他
 詳細ハ乙号乃至丁号添付書類ニ付テ悉細御承知相願
 也
 明治二十年五月十日

關東都督府

長官

在奉天總領事館事務代理
 領事館補佐 田茂 殿

追テ將軍選考中ニ見エル西川君係ノ稱解英、澳業公司
 ト本國邦者業者間ノ契約等ノ内容ハ書款、就テ卷ム
 ハキモノ殘存モリテ以テ之ヲ詳細スル能ハレシニ倣ヒ、將軍未キ直
 リトスルモ右ニ在テ者如氏ノ清國沿海ニ於テ漁業權ヲ
 享メタルモノト解スベキモノニハ是之ヲ清國領海ト發現ニ蘇浙
 沿海ノ如キ懸隆ノ事情ヲ考約シテ他如ク分西澳夫、之ヲ
 漁業ヲ許シ居ル等ノ實例モ有之候、領海、關スル抗上ノ
 法理論、ハ漸シハ將軍ノ為メ、情ヲ所、供本誌考考迄
 申添付也



寫
二
一

関往ノ三五号

本年天将軍ヨリ密月三十一日照會ヲ以テ本邦人阿部野利恭
本間健吉等大連ニ於テ水産組合並保護遠洋漁業團敷王
ノヲ設ケ其苦業若白ヲ賦付レ居ルルハ波海ノ漁業ニ関シテ人本
将軍昨午奉期ニ於テ委員ヲ置キ漁業公司ヲ設ケ巡視船ヲ
備ヘ章程ヲ定メテ保護シタルハ當時阿部野利恭等モ清利
公司ナルモノヲ設ケ旗標ヲ配シテ漁業稅ヲ徵收シタルヨリ
漁業公司ハ之ヲ阻止セントシタルハ適々西園寺總理大臣奉
降旨隨行ノ西園都督府參謀出テ、解釋ヲサレ與類ハ本邦
人ノ嗜好スル所ナル、由リ撤兵前、在リテハ暫ク相互照料レ軍
用ニ供シ度、越ナリレヨリ本將軍ハ切々兩國ノ國交又慮ヒテ
漁業公司、今レテ契約ヲ作リ暫時相互保護ヲ為ス、トシテ
稅金ヲ分收シタリレト同時、先備三十三年、於テ黄花魚ノ漁

關東都督府

期終ルヲ待テ該契約ノ解除期トシ以後ハ寧、漁業公司、總
リ保護スル、ト聲明レ置ケリ今ヤ已ニ撤兵期、及ヒ軍用
ニ供シタルモノトシテ前例、効フヘキ、アラヌ又他、名目ヲ求メテ
漁業ニ干渉セラルヘキモノ、アラヌ、今阿部野利恭公司ヲ設
主レテ保護又ヲ倡言シ其欺附セル告示告白ハ、昔海、渤海、
及奉天、山東海陸一帶ノ漁業地帯、或ハ山東省空同島
若クハ奉天省盤山嶺、海口等ノ地方、モ出徑保護シ、並、マ
クノ洗船、運船ヲ准備シ都督府ヨリモ官ヲ派シ、小蒸氣船
ヲ差遣スル旨ヲ記載シテ、昨奉所新ノ契約、違反セル所、
有之且先示告白ハ清國人、對シテ立言レテ、且未タ清國ト
商議ヲ經タル、アラヌ目下黄花魚ノ漁期、近キ若シ連カ、
禁止セサレハ阿部野利、漁業公司ノ巡視船トノ間、事端惹
起スル、ナキヲ保シ難キ、就テハ阿部野利、署レテ日本官署

黄花魚ノ漁業ニ
關スル兩國ノ條約

ノ許可ケ住居ルモノナリヤ或ハ恣ニ右様ノ事ヲ為レ居ルモノナリヤ
何分ノ義至急回答アリタキ事申越候存官ノ知得セル限リ昨
年能岳殿附近ノ漢業保護ニ関シテハ日清兩官寓
間、好マレカサカ隔意ヲ生レタル歴史アリ候儀ハ已ニ御了
知ノ次第ト思考致候且我權域外清國領土領海内ニ於テ
右告示告白ノ如キ事業ヲ管メ又ハ管メントスル方ヲ告示スルハ共
不穩者ト存モシ且將軍、回差ノ都合モ有之候事 右水産
組合、對スル貴府ノ許可條並ニ保護ノ程度及組合管業
ノ地域等詳細至急御回報相煩レ度別紙將軍ヨリ送レ候
レ先告示及告白寫相添ハ此般中進併致具

明治二十九年四月二日

任奉天総領事 萩原守一

關東都督府

關東都督府男爵大島義昌 敬

31

17

取調 會計 人事 通商

大臣 次官 政務

明治二十五年五月二十日午後八時
林分務大臣 大島 軍務大臣

終ッタル付悉皆帰航ノ途ニ就キタルモ
會、その中訓電ノ趣旨ヲ引揚命令
ヲ発シ置ケル者ニ對シテ、豫備ノ豫備
沿岸ヲ距ル十一海里ノ至十五海里ノ
沖合ニシテ、五ノ倍ニ倍内ト認メ

ラレカレ長アリノ終、專地取調ノ結果、
作ル却テ、情ヲ懐キ、同司ニ於テ、コソ夜
陰ニ業ジ、此特知シタル兵多ク現物ニ係シ
者カヨリ、出懐船ヲ脅迫シテ、懐キ、固
定テ、且ツ金貨ヲ徴收シ、去リタル等、暴
状ヲ輕メタル事、例、多クアリタル、懐キ、固
例ニ於テハ、之ヲ追窮セ、不始メテ、可謂テ
開クコトヲ、辭ケタル、依リ、可謂テ、懐キ、固
終、得タルモノナリ、右、候セテ、先、近
本、北、東、林、ヲ、使、奉、王、公、ト、牛、莊、ニ、電、報、セ、ル

大臣 菅

次官

政務

通商

人事

會計

取調

生 第 五 七 号

林外務大臣

窪田領事

菅 本省 昭和 四年 五月 廿四 日 九 時 四 分

在 手 柱

第六〇号
往電第五七号、關シ熊岳城、漁夫、組
合ニテ糾合、旅順ニ引揚ゲタル旨、大石
橋、警務署ヨリ電報アリタリ

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

生

No.

第 五 九 号

林外務大臣

窪田領事

電信 菅 日 癸 午 着 着 四 十 年 五 月 廿 四 日 後 十 時

第六一號
往電六〇号ハ五七号トハ大体ト於テ関
係ナキコト明瞭ニナルト付、右中承知アリ
後ニ



0272

3-1815

131

取調 會計 人事 通商

第 17 号

大臣 菅

次官

政務

生

九六一 (暗)

林 外務大臣

果 東都督

西條 吹巻 甲子年 三月廿六日 三五
七音 〇〇四〇

通奉 天へ 電報セリ

州 三、五ハ、告示文、ハツギヨケン、海岸ニア
シニ過キサレモト認ム得才ニ告示中

シニ過キサレモト認ム得才ニ告示中
官ノ浮船ヲ漁漁シ云トアルニ徳者ナラザル
付責任者変分ノ手續中ナリ告知
示ハ本月十九日既ニ撤去セシメタリ

東京

本月付批電中、外務大臣電訓、趣旨、依
リ引揚命令ヲ奉シタルヲ以テ直ニ渤海
ニ於テ漁業權ナキヲ自任シテ退去
要求ニ應ジタルモノト認解セシメサル
旨アリタシ右外務大臣北京及牛莊へモ
電報セリ

133

17
14

取調 會計 人事 通商

大臣 菅 次官 生

九六二
(晴)

林 外務大臣

森 本考督

西條 順孝 四十年五月廿四日
森 本考 三十五

二日付書 慶元一八五号 外務大臣 轉電
爲 慶元一八五号 外務大臣 轉電
地内 庄 任 治 夫、 勘 海、 漁 業、 舟 偏、
始 要、 リ、 テ、 法、 正、 領 海 内、 入、 或、 負 販
賣、 又、 懸、 懸、 懸、 爲、 一、 二、 基、 合、 矣、 陸
上、 定、 入、 居、 外、 結、 各、 根、 廣、 按、 十、 本
件、 界、 入、 結、 次、 外、 務、 大、 臣、 森、 本、 考、 督、 以

同日付書 京都府 貴方 轉電 詳細
御 答、 答、 上、 思、 料、 ス、 几、 付、 之、 事、 不、

17 PM

大臣 林 外務大臣
No. 73

次官 吉田 事務代理

政務 生

通商

人事

會計

取調

奉天 四月二十五日 八二五

林 外務大臣 吉田 事務代理

第一七九号

大島都督へ左通り

第四一號

漢業公司より昨夜將軍へ電報ヨレハ日本漢
船ハ多ク引揚ケタルモ陸上ニ設ケアル
引揚ケノ模様ナキニツキ速ニ引揚ゲル
ルヨウ更ニ照會セラシトアリタル 報ニテ 右

要求ニ来リ何分ノ中返電アリタシ

(3)

附述：成立したるトアル馬城保險會社トモ
 性覺を起但し其實更ニ急シキモノナリ。利
 権擡張ルニ決シテ種ノ不情ニ依リテ治メ
 得バチラニテ却テ外官實ニ感服ヲ
 穢シ累ク國家ニ及ボシ留ルハ這回ノ事件ニ
 見ルニ明カナリ

彼等ハ法人ニ向テハ常ニ都督トモ係多
 誇大ニ聲張ルシ且各外ニ欺付セル告示ニハ
 奉委辦理保護遠洋慢業總辦
 ト署名シ又且文中ニ都督存アリ振盪ノ

寫
平傳
事
公
新
授
一

(4)

官用貨物ヲ幸ヒ云々、文句ナリト等ノ告
示、敷調了否既ニ当地ノ新事ニ掲ゲラレ
物議ノ因トナレリ

又蓋平事件ノ被害者ニ高景賢スモ
口叔、信者ヲ用サ告エラ業シ居ルハ何人
ハ元ト 宋慶部下下士 ナリシガ ソウタイブツカシ 露兵ノ旅順
占領、陸軍之が手にキラナレル即ニ依リ巡
捕ニ取立テラレ後露兵ノ官威ヲ借リテ
煙草信託同ヲ起シ土民ノ煙草者ヨリ
金銀ヲ強請シ居リしが日本ノ旅順占領

(5)

后又々日本ニ帰ルモ口叔ノコトヲ言ヒシヨル一
種ノ可輕慢ナリト稱セラル
之ヲ要スルニ遠洋慢事固カモハ情急人ノ
眼中ニハ露兵時代ニ於テ高景賢ノ事業
継続者ニテ虚喝取財ヲ目的トスル無賴
漢ノ他人ニ過キ不レホ、軍ヲ 死 護スルカ為メ
情急官民ノ敵事心ヲ刺 殺 鐵道其他
我軍要ノ利権行方ノ上ニ言大ノ辯 死 護
自ラ好シテ振ク、帝名は付ノ市報言ニテ
ヤルベキハ論ノ至ト思考ス余テ今回ノ事

16)

事ヲ極命ニ至ルハ淫者ノ信ヲ擴張
等ニ付テハ別ニ其者ノ信ヲ擴ルコトニシ
理ヲ(信)体ニ断テ解散セラル。極相成ニシ
コトヲ希(治)也

3-1815

0281

34

明治 年 月 日
口起 口
日 發 遣

政務局長

止

主任

林 有

関東都督

電送第三三號 明治三十五年五月廿八日
午後一時七十分發

然岳城漁業事件、并に牛
莊領事ヲシテ候答ヲ現場ニ送シ

外務省

調査モシヨタル結果ヲ依テ漁業事

が、漁船タルヲ向ハス候資料

ヲ強請シ拒ムモノハ漁獲物ヲ没収

スル等不都合ノ行動ヲ教ラシタルハ

概テ事實ナリト認ム元來同盟隊

ノ目的ハ自ラ漁業ヲ営ムヨリ寧クハ

他ノ漁業者ヲ保護科ヲ徴収

月

明治三十五年五月廿八日

之に在り依テ一方法を以て向テ都
 府ト、關係ヲ請ハ、以テ他
 方ニ暴カヲ用テ其目的ヲ遂行シ
 利益ヲ獲ンコトニ力メ、アムモ、ナルヲ
 以テ、今ニ於テ、断テ、其ノ益ヲ執ラ
 ン、以テ、我ノ利益ニ向テ、庇護ヲ
 与フルカ、如キ、親ヲ望ミ、三帝國ノ威行ヲ
 傷ケ、法を以テ、抗シ、他ノ法を以
 テ、設クシ、障害ヲ及ブ、虞レ、ア
 然ニ、同法ヲ、以テ、其ノ利益ヲ、
 可ク、与ヘ、シタルモ、ニアラサル、
 其存立ヲ、容認ス、ト、理由ヲ、ナキ、付テ、
 同法ニ、解散シ、命ヲ、以テ、法を以テ、
 業ニ、同法が、管内ノ、法を以テ、

外務省



出又將本、柱先、後業、保、後、由、
 付、中、テ、ハ、林、京、信、使、事、立、津、田、使、事、
 等、歩、地、金、令、令、節、其、分、元、中、協、
 所、及、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
 信、系、ノ、事、以、ハ、關、ス、ル、也、君、ハ、事、天、ノ、
 新、書、也、
ワタシ

外務省

3-1815

0285

35

第17

友人

次方乃ふ

生

電報

電送第130号
明治40年5月28日 午後8時5分

送付係

車下

吉田の電報

友人

和一二号

徳島県徳島市下徳島郡徳島町

和一二号 友人 徳島県徳島市下徳島郡徳島町

外務省

東京府芝罘町

徳島県徳島市下徳島郡徳島町

徳島県徳島市下徳島郡徳島町

徳島県徳島市下徳島郡徳島町

徳島県徳島市下徳島郡徳島町

徳島県徳島市下徳島郡徳島町

3-1815

0286

後ちりこ全邦一限ヨるヲ集ムル一掃ス
ル諸藩ヨリニ而モ其ノ各々ノ材ニ及ハルヲ也

外務省

3-1815

0287

第 17 号

奉天

支那の近代史

大正

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

カニ七号

大正十一年五月二十八日

(支那の近代史 支那の近代史)

外務省

電送第 1367 號
明治 40 年 5 月 28 日 午後 4 時 一分發

3-1815

0288

3-1815

0289

大臣 西條 實 五月三日午後二時
 次官 林 有造 大臣 大島 邦男
 政務 牛 久 大臣 林 有造
 通商 牛 久 大臣 林 有造
 人事 牛 久 大臣 林 有造
 會計 牛 久 大臣 林 有造
 取調 牛 久 大臣 林 有造

西條 實 五月三日午後二時
 林 有造 大臣 大島 邦男
 牛 久 大臣 林 有造
 牛 久 大臣 林 有造
 牛 久 大臣 林 有造
 牛 久 大臣 林 有造

17

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

晴
No. 015

林外務大臣

奉天発 四〇五
本省着 九前

在奉天
吉田事務代

漁業保護紛擾事件、関シ更ニ將軍ヨリ
照會シ来レリ其大要左ノ通り○漁業團
員等ヲ速カニ退去セシムトノ畏命ニ國文上
甚ク將服スル必ナリ唯其禁止ガ事件後ニアリテ
挽回ノ効無キニ惜ム所ナリ森林崎々間等
ガ不當手段ヲ以テ税ヲ強收シ之ガ為メ各漁
業者ハ早ク漁業ニ從事スルヲ得ズ或ハ逃走セシ
テアル為メ漁業上ニ其損害莫大ナリ且ツ

36

コウカヤヨ
貴花魚及ハツギヨ
ハ是等ノ漁獲ヲ全然以得シタル上退去シタルモ
ミテ我漁業公司於テ何等ノ得ル所ナク又今
回ノ紛擾ニ依リテ()ニ於ケル公司ノ施設上
種々ノ障害ヲ来スヲ以テ相当ノ豫防ヲ設ケザル
能ハズ、總督ニ秩序回復及和平維持
ノ為メ善後ノ便法トシテ左記ノ如ク案ヲ別仰
テ御出告シ一面交渉局ニ命ジ期日ヲ定メテ
貴官ト會議セシメント速ニ之ヲ議定セラレシメト
シ望ム(二)今回漁業團員ガ各漁業者ヨリ
強收シタル各種ノ税金ヲ全部償還スルコト

(二) 這回漁業團員が肩輿手段ヲ施シタルが爲メ
 各漁業者は早ク漁業に復事スル能ハズ又ハ逃走
 シタル爲メ漁獲スルヲ得カリシモノニ對シテハ、販賣其
 數ヲ計算シ時價ニ依リテ賠償ニヤキコト(三) 漁業
 者が税ヲ收メ、ル爲メ漁業團員が税^レノ收
 入者^ノ漁業團員が銃ヲ放ツテ漁船ヲ毀テ
 損シ又多數ノ人負ッ毆打負傷セシメタル者ニ對
 シテハ表^レ造リ相当ノ修繕費及ビ治療費
 ヲ負フベキ事(四) 森崎本間阿部野等が首領
 トナリ多人數ヲ率ヒテ暴行ヲ爲シタル就テハ右
 三人ヲ速時ニ逮捕シテ重キ懲罰ヲ加ヘ其他

後犯者ニ就テモ全様相当ノ處分ヲ加フルコト(五)
 是等ノ漁業團員ニ禁令ヲ發シテ以後再び租借
 地外ニ出デテ侵害騷乱スルガ如キ舉動無カラ
 シムルコト〇之ニ對シ本官ハ左ノ通リ回答シテ
 リ〇本件ニ對シテハ都督府ヨリ申越シタルオア
 リ却テ漁業公司が^カ夜^イ傷^ニ乗^ジシ^テ兵^ヲ
 丁ヲ派シ關東州出漁船^キヲ^クハ^クシ^テ漁業團
 交附ノ旗ヲ拔キ取り公司ノ旗ヲ立テ且ツ金貨ヲ
 強収シタル等其他種々騷擾ヲ極メタル實
 例多クアリ唯漁業團側ニ於テ之レヲ追及
 セズ慎重ノ態度ヲ以テ勉メテ事端ノ發生

三島傳
の
金
印

ツ遊ケタルが為ソ幸ニ大事件ヲ出カスニ至ラズ
着スルヲ得タルモノナル迄ニテ鬼ノ角本件ヲ更ラシ
充分ナル取調ハト慎重ニ考慮ソ要スル義ニ付
御照會ノ赴ハ大臣其他関係当局ニ報告シタ
ル故何分ノ電訓及ビ報告ヲ得ル上或ルバク速ニ本
件ヲ決定シ去キ希望ナリ然ルニ蓋平事件ニ関
シテハ今日迄未ダ何等ノ解決ヲ見ズ帝國政府
ノ手帳ヲ暫ク措キ本官持ナル妥協的提議ニモ
未ダ合意セラレザルハ甚遺憾トスル所ニ付是
ヨリ先ツ本件ヲ速ク解決シ去シ云々ノ前記
將軍ノ照會ニ対スル政府ノ返主義電訓ア

リ度し本電報公使及都督へモ轉電とリ

第17号

第1367号

明治三十年五月廿九日接受

警務局

機密第一四號

票付

漢業保護事業給授三屏名付

松島海防司令部

等

大連水産聯合漢業園が松島城較急園地方
ニ漢業及漢業保護事業ヲ一屏名付之就テ
將軍より之ヲ禁止方照會之奉リ名付ノ屏名
ヲ不取放電信ヲ以テ報告及漢業園
變任電ヲ一七〇号將軍ノ命トシテ立寄局
ヲ照會之奉リ名付ノ屏名一圓公文ニ別紙寫甲
号ノ通り之有リ又此電ヲ九九号海防司令部
本官が將軍へ送りタル由ニ別紙寫乙号ノ
通り之有リ此寫字ノ由圖表本度以テ申進ス
敬具

在清國奉天日本領事館

明治三十年五月二十日

在奉天總領事館

事務代理領事官補吉田



外務大臣子爵林董殿

3-1815

0293

37
2

奏辦奉天交涉事務總局 為

照會事案奉
軍督憲諭據奉天漁業公司四月初四初五
先後稟電鮫魚圍地方於三月二十六日有日
本遠洋漁業團事務員森崎前會生等二十
五人僱華兵五十六名租房一所又房山丸小輪一隻
打魚船十餘隻又小島組魚舖一所望海寨已
搭席棚兩所謁詢其情由有與我並時散旗
收費之舉又西河套地方四月初四日有日人三
名帶兵十名到該處設局勒令漁戶繳捐亦
係由鮫魚圍乘輪前往大有與我為難之勢
不得不實力驅逐又據初六日電稱日人本間帶

在清國奉天日本總領事館

漁雷二艘到圍逼令漁戶領旗納捐恐起衝突等情飭令本局迅即照會禁阻等因奉此
查水產組合取締規則以關東洲租借地界
域為限鮫魚圍西河套均我國領海該
漁業團特強越境攪利侵權甚至率領雷
艇森崎本間等膠泥都督府遠約妄行突
於兩國睦誼上生莫大之障害萬一與我保護
人等致起衝突不但
貴國應應擔責任奉天漁業所受之損害亦
應索取相當之賠償除稟電各抄件於初
六日面交外相應照會
貴代總領事火速實行禁止阻并望于三
日內見覆須至照會者

右照会

大日本駐奉代理總領事官吉田

光緒三十三年四月初七日

在清國奉天日本總領事館

3-1815

0295

37
3

寫

公文第五〇號

以書東致啓上矣陳ハ在大連日本遠洋漁業團員森崎及本間等カ鮫魚園地方ニ至リ漁業保護其他不當ノ行為ヲナシツ、アルヲ以テ速ニ之ヲ禁止ス様取斗方是裏ニ文法總局韓總辦ヨリ面談有之矣ニ付即時外務大臣其他關係當局ハ及電報置矣処今般更ニ文法總局ヨリ丁字第百二號公文ヲ以テ御照會越相成院悉致矣亦件ニ關シテハ前記本官ノ電報ニ對シ昨夜外務大臣ヨリ回電有之矣ニ付即時電諾ヲ以テ文法總局ハ及通知置矣処其要旨ハ本件ニ關シ事實ノ取調及善後處分方ラ都督ハ訓令中ニ付貴國例ニ於テモ紛擾ヲ醸シ事端ヲ發生セシメサル様取締方速ニ相當ノ手段ヲ取ラレ度旨貴總督閣下ハ請求スヘシトノ趣ニ有之矣改メテ公文ヲ以テ照會得貴意矣敬具

在清國奉天日本總領事館

明治四十年五月十九日

在奉天大日本帝國總領事館

事務代理領事官補吉田茂

大清國奉天總督趙爾巽殿

38

機密 1368

明治四十年五月廿九日 皇 政務局

機密第一一五號

漢業保護事業経路ニ係リ
更ニ將軍及交渉局ヨリ照會ニ

署名

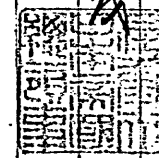
右件ニ係リ更ニ將軍ヨリ照會ニ来リタル公文、
大要ニ紐電ヲ一七二号ヲ以テ報告シ同時ニ交
渉総局ヨリ同様ノ意味ノ以テ送付シ来リタル漢
業圖ノ告示屬、大要ニ紐電ヲ一七三号ヲ以テ
夫々及報告置キ更ニ交渉總局及告示等、
照全文ニ別紙、通リニ有リ其旨ハ査閱スル所
此致申進候 敬具

明治四十年五月二十日

在奉天法政事館

在清國奉天

事務代理官 神吉田 義



外務大臣 齋藤 實 殿

然ルモ此等事情ハ

3-1815

0297

38
二

照覆事照得本年四月初九日接准貴國領事第五十號公文內開大連遠洋漁業團員森崎及
 本間等在鮫魚園地方保護漁業及為其他不當之行為請即
 速禁止等因茲准貴國交涉總局轉總辦面譯當經電致外務
 大臣及其他有關係之當局去後現又准交涉總局以丁字一
 百零二號公文照會前來閱悉查此事昨夜已由外務大臣電
 覆即時用電語通知交涉總局在案其要旨謂關於此事
 已訓令都督查明事實為善後之處分在貴國一面亦請貴
 總督閣下速用相當之手段妥為約束勿令紛擾以致發生事
 端等因准此查前次漁業公司稟稱
 貴國人設遠洋漁業團招收黃渤海及山東沿海一帶漁利曾

正清廟六天月天廟廟廟廟

3-1815

0298

經本軍督照會
貴國總領事查祖在業遷延至今迄未見覆乃近日查據該公司
統辦地守電稟遠洋漁業團員森崎及本間等僱用兵勇乘
輪由鮫魚灣前往勒令各漁戶領換收費為數甚巨甚至將我
散之旗拔投海中家情惶懼其他槍斃漁船威嚇漁戶種之
橫行為不問勝怨請核示等情前來似此行同搶劫即當軍政
時代亦不至此殊堪駭現值黃花魚汛已過不特我應收入之巨
款全被侵奪即各漁戶因此不能早日下網及聞風遠避者所受
損害更難驟以數計日前既據文涉總局稟稱
貴總領事言已得
貴國政府暨都督府同電認漁業團員散旗收稅為不當等
語即應先行嚴禁森崎本間等之進行方現推誠相見之道
乃事前既毫不豫防臨時又復飾詞或未收稅故為推

之計仍任冷該漢業團暴動行格收連利法戰事不知
 貴總領事所請善後處分究何所指此次我漢業公司兵位并
 無抵抗舉動係遵本軍督之令今原欲辭歸已又與貴國代
 貴總領事對於該漢業團如何等相當之取締再行和衷商
 辦今
 貴總領事徒請求本軍督不復發證博端而於該漢業團絕無
 嚴切之禁令是無異使加管之方有違其據奪之權利受會
 之一方及先負保護之義務而於近情本軍督為顧全國
 際國交起見仍不處行我正當防禦之手既特派專員與
 貴國總領事電請貴國政府速飭該漢業團一類之類
 貴國政府暨都督府速飭該漢業團一類之類
 貴國領事先行制止阻礙商辦貴國領事亦應遵照
 貴總領事先為照辦務望於中不致有礙及為禱再稍延

王正廷閣下
 王正廷閣下
 王正廷閣下

3-1815

0300

時時與數與沈及復將至此等以法之疑或能總持而暴
 行彼時斷亦能將合該商放棄職務惟有實行驅逐以相
 對待此等聲聞在前直亦得已而出此一集萬一釀成事端
 貴總領事當預預責此對於現在事實而言也至對於善
 後之法亦得不請也
 貴總領事核辦者應將若等處即速捕嚴待懲處
 庶庶數與沈該台同向或各漢戶散旗亦致有擾害等
 一面將已收各費全數交還一面計各漢戶受損高給賠
 償方足副
 貴國政府之秉至公之肯且足表
 貴總領事體恤商艱之意務勸安謐總局另文照覆外
 各商能復善於公次向商計出必以誠實公同共計并
 貴總領事請須查照施行并希起見現復須至照覆者不味

3-1815

0301

右照覆
大日本駐奉代理總領事吉田

光緒三十三年四月初九日

在清國奉天日本總領事館

3-1815

0302

38
三

奉辦奉天交涉事務總司
 照會事案奉
 軍督憲札開
 貴總領事照會以到東洲魚業團員森森境及
 本司等在鮫魚園地方有不當之行為一事接外務
 大臣覆電其要旨謂關於此事已訓令都督查明
 事實為善後之處分在貴司一面亦勿曠紛擾
 以致發生事端請貴總領事下達取相當之手
 段特此照會等因除覆貴司總領事外合行札仰
 該司遵照會等因奉此查該團員之行為
 貴外務大臣既認為不當自應飭令即時離境
 海方見貴政府之實心乃初八日又據澳華司

3-1815

0303

電於該國與我商員在敵國等處張網等事
 散旗給照并將我處所獲之旗收復海中且仍
 以暴力收取保護費其為數甚巨實情似此不法
 行為本司視察本司等錢寇盜不得不得實行
 驅逐若
 貴國等不即時禁止加以相害之處置萬一與我
 保護人等致起衝突自應由
 貴國等負其責任至前在敵國等處張網之保
 護費以及我商業所受之損害等項應飭查
 貴國如數賠償以符兩國和平辦事之意所有
 該商等國前出告示三紙合併抄送請查照
 仍望速覆須至照會者

3-1815

0304

計技送演業團告示二件
照會

大日本駐奉天代理総領事官吉田

在清國奉天開水總領事館

3-1815

0305

325

寫

關東州水產組合保護遠洋漁業團事
 務局總辦阿
 告白事照得遠洋漁船及農商人等一體知
 悉爾等務要遵規不可任意生非即本局
 之凡一切大小事務皆要公平不准仗勢欺人倘
 有不遵者若被查出定行重責決不寬宥有
 切切
 謹將各條章程開列於左
 第一條或網船或販鮮船皆要先領旗掛號若
 有不領旗者倘被總局查出定行重責決不
 寬貸
 第二條凡大小網船至晚皆歸海口不准在網地
 宿夜如有不遵者倘被總局查出定行重責決不
 寬貸
 第三條凡網船不准在網地賣魚如有不遵者
 定行重責決不寬貸
 第四條或網舖或販鮮船皆要網船歸海口時
 方可買魚不許私行買魚以致爭吵倘不遵
 法字規定責
 第五條凡總局之人務要行事公平不許徇私如
 有不遵者倘被查出定行究辦決不寬貸
 第六條凡日本人無論賣買皆要公平不准仗
 洋名欺人若有不遵者定送總局究辦
 第七條凡水產組合總局人等務要守分或巡
 警或在港不許私離汛地如敢故違定行究辦
 第八條凡總局人等務要遵規不准喧嘩亦不許

在清國奉天省水產總局印

違

與另人爭吵倘有不遵者定行重責
第九條凡每棚什長總要拘約各棚人等或有
事無事皆要按規守法不准私離重地若有
事故者先要會明倘有不遵者無論親友
立即革出切切

右示通知

光緒三十四年四月

初一日

明治四十年五月

十二日

在清國奉天日本總領事館

38.5

寫

廣東州水產組合保護遠洋漁業團事務局總辦阿 為
告白事照得各口小船全賴捕魚為生歷年黃花魚市攸關要務
近來海洋不靜盜賊蜂起小船未往尋踪劫掠如經撞獲被害
非淺若不設法保護何以聊生茲有

廣東州水產組合總辦阿部野利恭設立保護遠洋漁業團責成
本局多備輪船快船並水產組合差委管火輪帶領前往加意
保護以靖盜源而安生業為此告白象船戶等知悉凡在日本管領
界內與船與遠洋魚船務必赴本局領掛掛牌發給牌票以
為憑証如有不領掛牌者倘被查出加倍重罰領牌費全毫
圓或赴紅山嶺山或赴熊岳海口是必前往保護如在網地被官
或被賊人劫去財物本局必為照數自賠傷斃船人一各亦必查
明施給養廉不在日本界內船隻願受領牌者亦同一體網事畢
在清國奉天日本總領事館

茲必派輪船護送特此告白
各口網費數目開列於後

計開

- 紅山風網每船收費全五十円
- 紅山風網每船收費全五十円
- 紅山風網每船收費全三十円
- 由盤谷到暹羅風網船收費全三十円
- 蝦蟇船每船收費全五十円
- 無岳流網每船收費全五十円
- 紅山紅山網每船收費全五十円

光緒三十三年四月初四日
明治四十年五月十四日

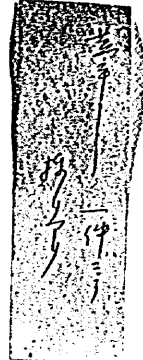
兵ヲ使用シテ後紫園ノ後行ニ向
 ワテ幕少シヤ加ハタルヲキテ格ニラ少
 合ニ屬ス然レハ將軍ノ要ホノ如キ
 固ヨリ秘ニ於ラ之ヲ居スルノ事希ナシ
 此不意ナレバ事ニ對シテ是後交
 合ニ叔方共ニ其關係者ノ向見
 外務省

此書ノ交分ヲ如ハ以テ將來ニ於
 テ再ヒ事端ヲ醸シレバ尤モ在
 此者ヲ答ヘテ
 然レバ本官殿ノ持合ハ
 終ニ
 終ニ
 終ニ

中道上下大、影射者ヲ及ホス付一、
右
当方主浪ノ事一、実ヲ否認スルニ
及、
反、
海、
即、
電、
未、
ア、
リ、
タ、
シ、

3-1815

03 15



寫

二〇六
時 癸卯年四月廿五日
本署 癸卯年四月廿五日
本署 癸卯年四月廿五日

林正好代

牙一七

諸案件之付引候事
中ノ事カニ
諸案件之付引候事
中ノ事カニ
諸案件之付引候事
中ノ事カニ

外務省

諸案件之付引候事
中ノ事カニ
諸案件之付引候事
中ノ事カニ
諸案件之付引候事
中ノ事カニ
諸案件之付引候事
中ノ事カニ
諸案件之付引候事
中ノ事カニ

延長博臣軍司

之財をスリ得金致之者其極言陪僕ト
 して安承し多し右持ノ政計ノシテ能ク
 中ヤ然し持言ノ是様ニ對スル極細
 之彼ノ極力主臣之等ニシテ家ノ陪
 僕ニ安承ヲ撤回セザルハ彼ノ所ナ
 撤回セザルニ至ルハ其ノ又漁業
 係ニ復スル得ニ至ルハ其ノ政計ノ
 行カサル後ト認ムル者言明ニテ有ル
 ハナキヤ何分ノは是例アリマシ
 (高島正久海軍少将書翰)

外務省

3-1815

0319

コト揚言を以て得ては直に過戒を以て
し生結果之を平百の支隊に就くは
ルコト必し確を以て事ト不陪修守を以て
い事不了何の事し一系同を以て事ト不し
宗皇ノ建様ニ對するは宗皇ノ御意
揚言を以て承讓せしむるは五子同を揚言
之ノ返後扶佐料トしてするは
ヲ主成るに付事成るに之ヲ拒絶するに
能くは事成るに付事成るに之ヲ拒絶するに
一系同を以て事成るに之ヲ拒絶するに

外務省

附るコト、し生結果之を平百の支隊に就くは
揚言を以て承讓せしむるは五子同を揚言
之ノ返後扶佐料トしてするは
ヲ主成るに付事成るに之ヲ拒絶するに
能くは事成るに付事成るに之ヲ拒絶するに
一系同を以て事成るに之ヲ拒絶するに

先及の教を以て海軍(海)不任ノ旨の如
し多う不任の旨の如しはサレ上ニ記ノ事ニ
教ニ及スト云々(時)

然るに其旨を以て一七多う海軍訓とあり
我レハ將軍ノ旨を以て記す能ハサル旨
是レノ必要アリ一國を以て勿レテ相違
不任ニ及ルル事ニヨリ本旨ヲ將軍ノ旨
おミ加ふる能ハサルコトニ習リ明ク云々
に於テ其旨を以て記す能ハサル旨
お申ノ事お分りなれト曰時ノ海軍云々

外務省

不任ノ旨を以て記す能ハサル旨
ノ旨ノ旨を以て記す能ハサル旨
方カ相違ニ由ル事ニ一七多う記す能ハサル旨
言明僕ト有る事お分りなれト曰時ノ海軍云々
一七多う記す能ハサル旨
ヲ先ツ記す能ハサル旨
案ニ記す能ハサル旨
海ノ旨を以て記す能ハサル旨
ノ旨を以て記す能ハサル旨
一七多う記す能ハサル旨



い奉侍おのほあ一時新既く本ニヨリ
出訓今ハ折し各教アリタシ

(奉侍はまゝ漁業係之被一拜侍
了)

外務省

3-1815

0323

41

上巻

夏小春替

卯五二早

上

明治40年6月3日 1445- 125

替

徳島地誌

後素園之實之考也 宛意然...

向國...

飾ノ如ク第ノ後後後夫ノ某今ニ...

外務省

自ラ後素ヲ管ハシテ目的トスル...

カラスノ...

後素ノ...

内ノ...

モノ...

料...

3-1815

0326

123

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調

No.

2141 (暗)

林外務大臣

大島都督

奉天吉田事務代理ニ在リ

ハルビン電報一八七號及一八七號

取調ノ件ニ屬シ未知俄ニ不穩當ナリト
ノ莫クシテ恐ル能ハズ況ニヤ不法ト認ル
コトハ到底同意シ難シ若シ之ニテ蓋平
事件ノ解決ヲ遲延スルトモ已ムヲ得ズ



3-1815

0330

24

次
手
紙

手
紙

17

明治四十年六月三日 後

公第九五號

警務局

警

受第 三三八九號

蓋平漁業事件 謝スル館員出張
復命書提出ノ件

蓋平縣鮫魚園附近ニ於ケル日清漁業協議事
件ニ關シ本月廿日付御電訓ニ基キ實地取調
ノ為町目石原書記生及橋本警部ヲ同地ニ出
張セシメタルトコ翌廿二日調査ヲ終ヘテ歸館致シ
別紙寫ノ通り復命書差出候ニ付茲ニ及進洋候
御査閱相成度此段申進候敬具

明治四十年五月廿三日

在牛莊

領事

窪田文三

日本領事

四十年十二月七日 在牛莊

在牛莊日本領事

外務大臣子爵林 董殿

3-1815

0331

復命書

明治四十年五月廿一日受命蓋平縣鯨魚園、出張し水産組合
遠洋漁業團、行動其他ヲ取調タル要領在リ如シ

一遠洋漁業團ナル者、水産組合ニ屬シ組合長ニ於テ漁業團、總
辦副總辦等ヲ任命シテ行動ヲ指揮監督シ其責任ヲ負フガ如
ク、云フモ其實、遠洋漁業團ハ水産組合トシテ全然經濟ヲ異ニシ獨立自
由ノ行動ヲ為スモノ、如シ

二遠洋漁業團ハ漁業ヲ漁業ニ居テ僅カ、日本式漁船十二艘ニ日
本漁夫百廿四人ヲ引率シ多少水産ニ經驗アル者ヲ技師トシテ、試験漁
ヲ為シ居ルノミナリ、依テ鯨魚園方面ニ於ケル漁業團ノ行動ハ、漁
場ニ於テ海賊ノ防禦ヲ行フレ以テ漁業ヲ保護スト稱シ各漁船ヨリ
料金徴收スルヲ以テ目的ト為ス者ト認カルモ、是支マキガ如シ

三漁業團ノ出張所ハ鯨魚園望海寨西河套等ニテ所ナリ馬山
九ト稱スル百ニ三十噸位、私有汽船一隻ヲ備ヘ毎日一回乃至二回
往澳場ヲ巡邏スト云テ

四出張所ハ支那人ニカーキ色ノ小倉服ヲ着セシメタル支那兵士ノ守者
十人死シテ置シ馬山九ニモ全八人乃至十人位ヲ乘組マシムルトシ
都合四十人雇入トアル卦銃器携帶スルヲ現認セサルモ平素ニ之レ
ヲ携帶セシメアトシテ、其馬山九乘組、船長以下十人

五保護料ト稱シ漁船ヲ徴收スル金額ハ風網十十箇小旗代、即因組
合証料、即因都合五箇、其其他漁船ノ種類、又ハ異ヤカ如シ
六保護料ヲ徴收スル間、東州内ノ者ハ勿論、東州外ノ者ト雖、保護
費ヲ希望スル者ハ其承諾書ヲ求メ水産組合ノテ放シ、其州内
者トシテ料金徴收スト云テ

七 漁業團ノ保護ヲ受クキト何レノ漁船ニ對シテモ之ヲ勸誘
ニト云フ其勸誘ノ方法現ニ目撃スル所ナラサルモ曾ク多大ノ強制
ヲ用ヒタルノ形跡アリカ如シ現今ニテハ馬山丸ノ漁場ニ至レハ漁業
團ノ小旗ヲキ者ニ進ラ保護料ヲ出シ小旗ヲ請求スルカ如ク
見ニ畢竟前ニ強制セラレタル者アリテ知ル故早ク後ノ相合差
出ス者ノ如ク思料セラン 漁業團副總辦市原源次郎ノ雜談
中ニ小旗ヲ所持セサル漁船ヲ追ヒストルヲ宣發シタル事アリト云
ヒ又之レト及目ニ小旗組ナル者ヲ聞クモ之追往々保護料金
差出サシ者ハ奉骨ヲ切リ下モアリト云ヒ居ル現ニ暴行脅
迫等甚シキ強制ヲ施サシム兵士様ノ支那人ヲ汽船ニ乘込
メシノ意安堂ヲ漁場ヲ巡邏シ其執リテ不レ暗ニ強制ノ手
段ニシテ効果至大ナル者ト認メラル

八 漁業團ノ組織章程ニ者何等無之從テ保護料徴收スルノ
正當ヲ認ムキ理由ニテ且僅ニ漁業者ト合意ヲ料金ヲ
取立テ小旗ヲ給ス者アリトハ役員ノ權ニテナリ

九 保護料差出サシ者ハ魚類ヲ悉皆取揚セラルト云
ヒ居ル

一〇 漁場ニ於テ目撃セルルル漁船ノ數ハ凡ソ三四百ヲ以テ算セラル平
素ニ尚多數多クアリト云フ前夜ノ此風ニテ漁船多ク避難シタルト
漁獲ノ減シタルト云フ其出漁船數ノ少キカ如ク聞キタリ或ハ前
夜漁業團馬山丸ニテ多數ノ漁船ニ強制ヲ試シタルヲ述ベ去
リタル者ノ如ク評スル者アルモ事實ニテヤ不レ判明セリ前夜海
上ノ風波アリタルニ事實アリカ如シ

一一 漁場ニ危所ノ漁船多ク漁業團ヲ渡ラタル小旗ヲ掲揚シ

后より現、揚揚セザルモ之ヲ所持シ在ル者アリ
 其漁船多ク、濶東川内者ト聞キ及テ尤モ故寺川外
 ノ者モ混ヒ居ルベト云フ
 二漁業團ノ保護料徴收着手ハ本月十四日ナリト云フ出漁者
 最モ多ク、十七八日頃ニテ最大多数ナリト云フ漁船千隻
 以下ト聞キ、再後三四日ヲ経過セバ不漁期トナル故、漁業團
 之引上ルニ至ルベト云フ
 三漁業團ニ於テ之ニ保護料徴收ハ凡ソ八九千圓云々在ルニ
 事實ハ此ノ三倍位ト取立テ居ル者ト如シ
 四保護料一面差出セバ不漁期間、幾日経續スモ再ニ差出ス
 二及ツテト云フ
 五保護巡邏船馬山丸、漢船、自籍ノ事、恒正時之引船
 トシ又漢船ノ御坐、取時、安全ノ箇所迄保護送テト称
 二后レリ
 六漁業團ノ出張所ニ曾テ日本国旗ヲ揚揚シタル事ハ一ノ
 形跡アリ
 七漢場近傍ニ於テ川外ノ漢船ト称ス者、漢業團ヲ渡
 ンタル如キ小旗掲揚スル者多数出漁スルヲ現認ス
 八漁業團ノ重シキ者ハ阿部野利茶、本間錠吉、原源次
 即森脚某ト如シ
 九清国官憲ニ於テ徴收シタル者ヨリ二重ニ保護料取立メ
 二ツ聞カズ
 一〇小旗ハ長サ二尺、寸位中、煎尺位ノ白木綿、水字ヲ赤色ニテ
 縫ヒ付ケタル者ナリ

一 海岸陸上ニ魚類ノ販賣店ヲ禁ム日本人アリト云フ小崎組
 ト稱シ小崎竹次郎トシ者魚仲買ノ業トシ者トシ他方
 面ノ評ニ支那人ノ使喉セシ者アリト云フニ確実ナラズ
 二 小崎組關東州内ノ漁業者ニテ清國官憲ト漁業團
 ト双方ヲ徵稅セシメテ嫌忌シ出漁見合セ居ル者等六十
 餘艘ノ船泊ヲ利率シ来リ之ニ漁業ヲ為サシ其魚ヲ購買
 シ夫レヲ他ノ賣ル其間ニ利ヲ收ルヲ目的トシタル者ナリト云フ
 本邦人九人合同シ居ル者トシ
 三 全組本月八日開業以來僅ク百圓位ノ收入アリト云フ
 元來無資本連ノ集合タルト如キ評アリ
 四 全組ノ利率シタル漁業者ノ徵稅ノ應セサル者ナルモ漁業團ノ
 者ニ強制セラシ出稅シタル者五六艘トシ者トシ其他ノ利率シ
 漁船中海岸ニ歸船ス沖合ニ於テ魚ヲ他ニ販賣スル者アル
 故最初ノ目的ノ如ク利益ヲ收メ難シト云ヒ居ル
 五 小崎組元來詠順ニ於テ水産組合ニ加入シ漁業ヲ為シ居タ
 ルトアル者トシ故漁業團ニ合同シ居ル便宜ヲ求メテト云フ
 之拒絶セラシタルト云フ
 六 全組關東州内ノ漁船六十餘艘ノ利率シ来リト云フニ多少疑
 ヒキ能ハサルノミナラズ他評ニシテ全ク無實ナリト云フモナリ
 七 全組ノ海賊其他ノ場合ニ於テ漁船ヲ保護スル方法立チ居ラス
 ト云フ他ノ漁船ノ出金ノ際ハ其意ニテアリテハキモ其後ニ多少
 保護ノ名義アルヲ以テ漁業團ニ信頼シ安全ニ漁業ヲ營ミ
 居ルニモ不構獨小崎組ノ漁船ノ保護關係アリト云フハ
 畢竟支那側ノ使喉セラシ事件發生ノ時同官憲ト頼ム所

一 凡ルが為メテト疑フ者ヲアルカ如シ
 二 漁業團其他者多クアンペラ及小屋ヲ設ケテ居住スモ小崎
 組ノミトエテ以テ作ルル支那家庭ニシテ支那官憲ノ許可
 ヲ受テ借リ受ルルトモア
 三 清國側ニテ五月廿日ヲ初トシ僅カニ三漁船ヲ料金ヲ徴
 收シシル中其内東州内居住ノ漁夫宗國清者ヲ
 五拾三圖ヲ徴收シ居ル漁業團ニテ其欲水征ツ該漁夫
 引揚ケ漁夫ニ送金方清國側ニ催シ居ル
 四 清國側ノ住所ニ奉天漁業団屋司分向充者ヲ設ケ居ル
 五 清國側税金徴收スル者ハ支那既ノ三角形小旗ヲ給
 與スル者如シ
 六 清國側ニ於テ巡邏船ヲ設ケ強制税金ヲ取立ル者如シ
 七 清國側ニテ漁業團ヲ渡シタル小旗ヲ樹立スル漁船ヲ認メ
 以テ大ニ迫害ヲ加ルルル漁業團ノ小旗ヲ持タル之レヲ
 掲揚セザル漁船モ間々之ト有ルカ如シ
 八 清國側ニテ徵稅ノ能ハサル者對シテ清國兵下業組ノ
 船ヲ以テ沖合ニテ漁魚ヲ強制ノ安價ニ買ヒ受ケ之レヲ市
 場ニ持テ歸リ賣出相場ノ賣買其間ニ利益ヲ收メトス
 九 者ノ如シトシテ
 十 清國側ニテ帳簿上僅々三人ヲ徵稅スルカ如キ書エアルモ
 其實五十四圖七十等圖トカガキ類ニテ教多ク漁船ヲ
 強制ノ取立テテトノ評アリ事實トカガキ推定スル荷
 トナニ巡邏船ヲ出シ又時々軍艦合標ノ裝置ニ船ヲ派
 シ居ント云フヲ以テ見ルニ相像スルニ餘リアリ

右各項通り本取調ニ付、漢業團ノ請但清國保護公
司命令漢業團ノ巡邏船等ニ臨ミ現ニ見副シ且十二哩余
ノ沖合ニ航シテ得タル結果ニ候漢業團ニ對スル漢船間ノ感
情ハ昨今大ニ融和氷解シ眞ニ保護ノ依頼シ居ル者ト云フ
ニアリ事實ニ近キニテトモ思料セス候条願末茲ニ及復
余候也

明治四十年五月廿三日

在牛莊日本領事館

外務省警部 橋本清慎

外務書記生 石倉逸太郎

領事窪田文三殿

追テ歸路無魚圍ノ距ル約廿五哩ノ西河套沖合於テ
清國漢業團保護巡邏船乗組員ニ鎮遠丸ニ邂逅
シ端艇ヲ以テ迎ヘラシムルニ付訪問ニ所志駁劣ツ取調
ノ結果ヲ兼知シ度キ事然レバ此館復余後
ナラカレハ他ニ告白シ難キ旨ヲ示シ之ヲ拒絶シ置キタリ
忠駁曰ク事件急迫故速ニ相當処置方上官ニ申
出テラレント希望スト速ニ居タルニ付テ為奉考申添
候也

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調

17

No.

2197 (暗)

電信 旅順癸卯年六月六日午後三時
如着着 六月六日午後五時十分

林外務大臣 右島都督

送 皇業園事件に關し布日衆細詳取調結

情老サザル多付委細郵便。右奉

天ハモセリ

天ハモセリ

